

1 防災施設の見学は防災学習の第一歩

県民の皆さんが見学できる施設としては、まず神戸市中央区のHAT神戸に「人と防災未来センター」があります。兵庫県が平成14年4月に開設したもので、専門の研究者による防災研究、人材育成、災害時の広域支援等を行う一方で、県民の皆さんをはじめ国内外からの観光客・来訪者のために、震災の教訓を継承する資料の展示や情報発信を行っています。また、三木市には「兵庫県広域防災センター」があります。災害時には広域防災拠点として災害対策に使用される施設ですが、人材育成や防災体験学習・訓練を実施しており、県民の皆様にもご利用いただけます。

このほかにも、県内には、阪神・淡路大震災の震災遺構として残された「神戸港震災メモリアルパーク」や「北淡震災記念公園」のほか、「神戸市危機管理センター防災展示室」、「仁川百合野町地区地すべり資料館」、「尼崎閘門」、「福良港津波防災ステーション」、「実大三次元震動破壊実験施設」などがあります。防災学習の手始めに、このような施設の見学に行ってみましょう。

県内の見学可能な防災施設

○人と防災未来センター（神戸市中央区）

人と防災未来センターでは、震災に直接関連する一次資料（約18万7,000点）と図書・刊行物の二次資料（約4万点）を所蔵しています。開館前の平成7年より震災資料の収集事業が行われ、平成12年6月から約2年間、兵庫県が大規模な震災資料の調査事業を実施し、収集・整理したものです。

また、特撮映像と音響、照明で震災が起きた瞬間を再現した「1・17シアター」のほか、地震の被害の様子を映像とジオラマ模型で表現するとともに、震災の体験を語り部やビデオにより伝えています。毎年約50万人の方が訪れています。

なお、平成29年1月以降、毎月17日の減災活動の日には入館料が無料になっています。

※17日が休館日（月曜日）の場合は、翌日18日の入館料が無料になります。



▲ 人と防災未来センター西館と東館



▲ ライトアップの様子

所在地 神戸市中央区脇浜海岸通 1-5-2

TEL 078-262-5050

HP <http://www.dri.ne.jp/>

○兵庫県広域防災センター（三木市）

三木総合防災公園にある兵庫県広域防災センターは、災害時には県内外からの救援物資の集積・配送機能や災害応急活動要員の駐屯・宿営機能を備えた県全域をカバーする広域防災拠点となります。平時においても、地域防災の担い手である自主防災組織等のリーダーの育成を図る「ひょうご防災リーダー講座」を実施しているほか、県民の皆さんの防災意識を高めるため、防災講話、地震体験、煙避難体験等からなる「防災体験学習」を実施しています。

所在地 三木市志染町御坂 1-19

TEL 0794-87-2920

HP <https://www.fire-ac-hyogo.jp/>



○北淡震災記念公園（淡路市）

公園内の野島断層保存館では、兵庫県南部地震で出現した野島断層をありのままに保存しており、地震の凄まじさと脅威を感じることができます。

また、昭和2年頃、神戸市長田区若松町の公設市場の延焼防火壁として建てられ、第二次世界大戦の神戸大空襲でも阪神・淡路大震災でも耐え残った「神戸の壁」を移設し、震災の記憶を風化させないための震災遺構として保存しています。

活断層の真横でもほとんど壊れなかった家をメモリアルハウス「地震に強い家」として公開しており、毎週火曜日には『震災の語りべ』が体験談を語ります。そのほか、兵庫県南部地震と東北地方太平洋沖地震の揺れの違いを体験できる震災体験館等があります。

所在地 淡路市小倉 177 番地

TEL 0799-82-3020

HP <http://www.nojima-danso.co.jp/>



▲ トレンチ展示



▲ 体験館

○神戸市危機管理センター防災展示室（神戸市中央区）

防災展示室は、大学等研究機関、NPO等市民団体等と連携して運営する神戸の身近なリスクを学べる防災学習拠点です。

常設展示では、防災ゲーム・教材、防災グッズ、サバイバルトイレ・キッチン、耐震・家具転倒防止、防災訓練紹介、床面ハザードマップ、防災関連書籍が自由に閲覧できます。阪神・淡路大震災当時の話が聴ける「震災語り部」や、消防局管制室見学等と組み合わせて総合的に防災学習ができる見学コース等も利用できます（要予約）。

また、特別企画として、NPOと連携して夏休みなどに親子防災学習会を実施したり、大学と連携して防災講習、市民の防災・減災意識の向上を目的とした市民の交流の場「ぼうさいカフェ」を開催しています。

所在地 神戸市中央区江戸町 97-1 他

TEL 078-322-6232（神戸市危機管理室）

HP <http://www.city.kobe.lg.jp/safety/prevention/preparation/cmc/>



▲ 防災展示室

○仁川百合野町地区地すべり資料館（西宮市）

兵庫県では、阪神・淡路大震災による土砂災害で最大の被害を受けた西宮市の仁川百合野町地区に、斜面の動向を監視するとともに土砂災害について学習できる場として、平成9年に地すべり資料館を開館しました。この資料館では、土砂災害のメカニズムや対策工事、避難方法等について学ぶことができます。平成27年1月には最新の知見を基に展示物やガイダンスシアターのリニューアルを行いました。

所在地 西宮市仁川百合野町 10-1

TEL 0798-51-5904

HP https://web.pref.hyogo.lg.jp/hsk06/hs04_1_000000023.html



▲ 施設外観



▲ 土砂災害発生のメカニズム解説



▲ 土砂災害対策工事の模型展示

○^{こうもん}尼崎閘門（通称：尼ロック）（尼崎市）

尼崎閘門は、工業化のため地盤沈下が進行した尼崎市のゼロメートル地帯を水害から守るため、昭和 30 年に閘門式防潮堤の整備により建設されました。閘門とは、水位の異なる水面で前後の 2 つの水門を交互に開閉することにより潮位の高い海水が運河に入り込むのを防ぐとともに、船が航行できるようにした水門のことです。

24 時間 365 日監視業務を行っている集中コントロールセンターの 1 階にある防災展示室では、台風・洪水・高潮から「まち」を守る工夫や、「津波」から自分の命を守る方法等について楽しく防災学習ができます。

見学には予約が必要ですが、時期によって休日の一般開放も行っています。

所在地 尼崎市西海岸町地先

TEL 06-6409-1356（尼崎閘水門管理所）



○福良港津波防災ステーション（通称：うずまる）（南あわじ市）

福良港津波防災ステーションは、将来発生が懸念される南海・東南海地震による津波被害を軽減するために、「備える」「伝える」「逃げる」「学ぶ」という 4 つの機能を備えた施設として、平成 22 年に建設されました。

津波が発生した場合は、港内の水門、^{りゅうもん}陸閘等を自動的に閉鎖し、屋外放送スピーカーにより津波情報を提供するとともに、港周辺にいる皆さんの緊急避難場所にもなり、被害の軽減を図ります。

防災学習展示室では、津波の恐ろしさ、災害からの逃れ方を、斬新な映像や機器によって楽しく学ぶことができます。

所在地 南あわじ市福良甲 1528-4

TEL 0799-50-2381

HP <http://www.tsunami-bousai.info/>



○実大三次元震動破壊実験施設（通称：E-ディフェンス）（三木市）

三木総合防災公園内には、国立研究開発法人防災科学技術研究所の実大三次元震動破壊実験施設（愛称：E-ディフェンス）があります。施設の主要部分は、実際の地震と同じ複雑な三次元の揺れを作り出す 15 m × 20 m の振動台です。その上に最大 1,200 トンの構造物を載せ、1995 年兵庫県南部地震（阪神・淡路大震災）や、2011 年東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）の地震を再現できます。

これらの能力を最大限に利用した震動実験により、様々な構造の破壊過程と新しい耐震技術の検証などを行っています。見学には予約が必要ですが、時期によっては加振実験を見学することもできます。

見学のお問い合わせ

所在地 三木市志染町三津田西亀屋 1501-21

TEL 0794-87-7320（震動実験総合エンジニアリング(株)（サイテック） E-ディフェンス見学担当）

HP <http://www.bosai.go.jp/hyogo/application/index.html>



2 防災学習会等で防災・減災を学びましょう

阪神・淡路大震災では、身近な人の死や避難所での共同生活を体験し、大人も子どもも命の尊さ、家族のきずなや地域の助け合いの大切さを強く認識しました。そのような中で、災害時に自分や周りの人の命を守るため、誰もができる消火・救出・救護などの知恵と技を学んで身につける、さまざまな趣向を凝らした防災学習の取組みが生まれました。

兵庫県では、人と防災未来センター、広域防災センター、県民局・県民センターにおいて様々な防災体験講座を実施しているほか、兵庫県内には、学習プログラムを開発して、地域の学習活動に提供している団体があります。また、防災リーダー等の指導者もいます。このような方々の力を借りて、防災学習をはじめませんか。

「ひょうご安全の日推進県民会議」でも、地域における県民の防災学習を促進するため、普及啓発事業を実施するとともに、助成金制度を設けて支援しています。

施策紹介

○県内で開催される防災学習会等

事業名	団体名	事業内容	連絡先
夏休み防災未来学校	人と防災未来センター	夏休み期間中、子どもから大人まで楽しみながら、防災・減災について学ぶことができる各種参加型プログラムを日替わりで毎日実施(7月)	人と防災未来センター 事業部 (TEL:078-262-5503)
夜間ライトアップを活用した地域交流イベント「ひとぼう HAT 減災サマー・フェス」		平成 28 年度より、ライトアップに親しみながら地域住民の交流を深めるため、防災・減災ワークショップ、映画上映会、夏の夕涼み減災縁日、ライトアップスペシャルプログラム、防災試食会・交流ガーデン等を実施(8月)	
オールハット減災チャレンジ! シェイクアウト&体験プログラムスタンプラリー (HAT 神戸防災訓練)		まちづくり協議会や関係機関が連携し、HAT 神戸全体として開催する防災訓練。「シェイクアウト」及び「減災訓練ワークショップ」に参加するとスタンプがもらえる「スタンプラリー」を実施(10月)	
防災体験学習	兵庫県広域防災センター	県民グループを対象に、学習ガイダンス、体験学習・訓練、施設等見学によるメニュー構成で提供(随時)	兵庫県広域防災センター・兵庫県消防学校 (TEL: 0794-87-2920)
【兵庫県防災士会連携事業】 ジュニア防災スクール	東播磨県民局	〔集合型講座〕 防災講義、施設見学、非常食の説明・試食、避難所体験、防災グッズの工作等(7～8月) 〔出前講座〕 学校や町内会の集まり等に出向き「防災講義」、応急搬送、土のうづくり、避難所体験等(随時)	東播磨県民局総務防災課 (TEL: 079-421-9260)
【兵庫県防災士会連携事業】 防災情報活用推進事業	北播磨・丹波県民局	モバイル端末等を活用した防災情報活用研修会	北播磨県民局総務防災課 (TEL: 0795-42-9309) 丹波県民局総務防災課 (TEL: 0795-73-3718)

事業名	団体名	事業内容	連絡先
防災講演会等	東播磨・西播磨・丹波・淡路県民局、中播磨県民センター	防災について知識を深めるための講演会等（12～1月）	東播磨県民局総務防災課 (TEL: 079-421-9260) 中播磨県民センター総務防災課 (TEL: 079-281-9040) 西播磨県民局総務防災課 (TEL: 0791-58-2113) 丹波県民局総務防災課 (TEL: 0795-73-3718) 淡路県民局総務防災課 (TEL: 0799-26-2009)
防災対策ワークショップ等の開催支援	西播磨県民局	自主防災組織等が実施する防災研修、避難訓練や防災マップづくりなどの支援（講師派遣等）を実施（随時）	西播磨県民局総務防災課 (TEL: 0791-58-2113)
神戸市民防災総合センター防災体験学習	神戸市	総合訓練塔、地震体験車、放水訓練場など防災センターの施設を活用して、防災福祉コミュニティや事業所の災害時における対応能力向上を支援するための様々な訓練メニューを提供 また、市民防災総合センターと隣接する、総合福祉ゾーン「しあわせの村」の連携事業として、福祉と防災を同時に学べる「福祉と防災の見学・体験ツアー」を実施	神戸市民防災総合センター (TEL: 078-743-3799)
防災・危機管理e-カレッジ	総務省消防庁	インターネット上でいつでも、誰でも、無料で受講することができる防災・危機管理講座。子供たちも学べる入門コースから、災害の基礎知識等を学ぶ一般コース、地方公務員、消防職員、消防団員の方々を主な対象とした専門コースの3つのコースを設定。また、グループでの学習を支援する仕組みとして、受講管理者が各受講者の学習進捗状況を確認しながら学習を促進する「e-カレッジ学習管理システム」を整備	総務省消防庁 (ホームページアドレス) http://www.e-college.fdma.go.jp/

○ひょうご防災特別推進員の派遣（ひょうご安全の日推進県民会議）

ひょうご安全の日推進県民会議では、建築士又は防災士の資格を有する方やひょうご防災リーダー講座を修了した方を、公益社団法人兵庫県建築士会、特定非営利活動法人日本防災士会兵庫県支部又は県内市町の推薦に基づいて「ひょうご防災特別推進員」として登録しています。自治会や自主防災組織、学校等からの要請により、ひょうご防災特別推進員を無料で派遣して、防災に関する講義や防災訓練の企画・運営の助言や指導、ワークショップなどの支援を行います。

TEL 078-362-9819（兵庫県消防課）

HP <http://19950117hyogo.jp/kyouka/agent.htm>

○防災力強化県民運動ポスターコンクール

ひょうご安全の日推進県民会議では、「防災力強化県民運動」の一層の普及を図るため、平成19年度から兵庫県内の小・中学生、高校生を対象に、「防災」をテーマとしたポスターコンクールを実施しています。受賞作品は、毎年1月以降に人と防災未来センターと県立美術館で展示するなど、防災の広報・啓発に幅広く活用しています。

【対象部門】

小学生、中学生・高校生、コンピュータ・グラフィックの3部門

【テーマ】

「防災」をテーマとし、次の内容を盛り込んだ作品

- 自然災害について認識を深める
- 個人・家庭・地域・学校・職場等における災害への備えを呼びかける
- 自助・共助や災害ボランティアの大切さを訴える

【表彰】

防災専門家等による選考を行い、受賞作品を決定

ひょうご安全の日推進県民会議会長（知事）賞、人と防災未来センター長賞、佳作、入選

【応募期間】

毎年6月中旬～9月末



TEL 078-362-9984（兵庫県復興支援課）

HP <http://19950117hyogo.jp/kyouka/poster.htm>

先進事例

「イザ！カエルキャラバン！」 NPO 法人プラス・アーツ

「イザ！カエルキャラバン！」は、NPO 法人プラス・アーツと美術家の藤浩志氏によって開発された楽しみながら学べる新しい形の防災訓練プログラムです。水消火器でのあてゲームや毛布で担架タイムトライアルなど、阪神・淡路大震災の被災者の声をもとに作成したプログラムを体験すると、おもちゃとの交換やおもちゃのオークションに参加できるカエルポイントがもらえる仕組みになっています。

これまで国内外の300を超える地域で実施されており、それぞれの地域に合わせてローカライズされています。例えばメインキャラクターとなるカエルは、沖縄ではヤモリにローカライズされました。地域の様々な人を巻き込みつくりあげていくことで、より愛着がわき、楽しく継続して実施していくことができます。

地域の様々な団体に参加していただき「防災をテーマとした地域のお祭り」として定着させていってほしいとのことです。



防災ゲーム「クロスロード」の普及に努める 神戸クロスロード研究会

「クロスロード」とは、災害対応で迫られるジレンマを疑似体験できるリスク・コミュニケーションゲームです。阪神・淡路大震災当時、災害対応に当たった神戸市職員へのインタビューをもとに開発されました。神戸クロスロード研究会は、このインタビュープロジェクトに関係した職員を中心に平成17年に設立されました。自治体職員の防災研修や地域の防災学習会などでファシリテーターを務め、クロスロードの普及を図ってきました。今では、仙台、高知、横浜、札幌など全国にファシリテーターの輪が広がっています。

最初は、ゲームを通じて震災体験を伝えることが主な目的でしたが、東日本大震災を経験して、ゲームを通じて防災を我がこととして捉え防災の実践ができる人を育てることに重点が移ってきています。今後は、震災を経験した人が少なくなっていく中でどのようにその経験を継承していくか、また新しい災害の経験を踏まえてどのようにゲームを改良していくかが課題であるとのことでした。



「クロスロード」および「CROSSROAD」は登録商標です。
「クロスロード」
商標登録番号
第4916923号
「CROSSROAD」
商標登録番号
第4916924号

防災劇で地域の防災力の向上に取り組む 播磨町消防団女性分団

播磨町消防団女性分団は平成18年8月結成。結成当初から女性の役割として啓発を担うことにしました。団員が演劇の経験を活かして防災劇による啓発の取り組みを始めました。平成20年春に播磨町中央公民館で住宅用火災警報器の設置をテーマにした防災劇でデビュー。分団員18名のうち10名程度が演劇に携わります。以来、防災劇は毎年1作ずつ創作しており、現在は南海トラフ地震対策や心肺蘇生法、子供向け劇まで7演目を有しています。町や広域消防の行事のほか様々な地域行事に出演し、月2～3回のペースで活動を続けています。平成22年には、全国女性消防団員活性化奈良大会で、火災予防啓発劇を上演しました。

若い女性が消防団に入団しても、出産・育児で退団していくことが多い。しかし、子育て世代のお母さんにこそ、消防団に入って消防防災を学んでもらい、子どもたちに命を守る術を教えてもらいたい。それが地域の防災力につながると訴えています。



3 防災教育で防災の力を養いましょう

学校における防災教育は、様々な自然災害から自らの生命を守るため、災害に対する正しい知識や技能を身に付けるとともに、助け合いやボランティア精神などの共生の心を育み、人間としての在り方や生き方を児童生徒に考えさせる教育です。

兵庫県では、阪神・淡路大震災やその後の様々な自然災害から得た教訓を活かし、未来に向け安全で安心な社会をつくるため、防災教育を推進しています。

防災教育で災害時に適切に判断し、主体的に行動する力を養いましょう。

県内で特色ある防災教育を実施している教育機関

○県立舞子高校環境防災科（神戸市垂水区）

平成14年4月、全国で初めての防災を学ぶ専門学科として舞子高校に環境防災科が設置されました。阪神・淡路大震災の教訓を活かし、自然環境や社会環境との関わりを視点を据えた防災教育を推進することにより、共生社会における人間としての在り方生き方を考え、命の大切さや助け合いの素晴らしさを学んでいます。専門的な知識を学ぶとともに、防災関連施設の見学や消防学校体験入校など体験学習にも力をいれています。

また、被災地でのボランティアや地域での防災訓練、募金活動などを積極的に実施するなど防災リーダーとして活動しています。東日本大震災や平成28年熊本地震では生徒全員が被災地に赴きボランティア活動を行い、その後も継続的な支援を続けています。

所在地 神戸市垂水区学が丘3-2

TEL 078-783-5151

HP <http://www.hyogo-c.ed.jp/~maiko-hs/>



▲平成28年熊本地震ボランティア活動の様子

○国立明石工業高等専門学校（明石市）

明石工業高等専門学校では、阪神・淡路大震災以後、授業やゼミ、研究の一環で地域の防災活動の支援や小学校での「防災講座」を行っていました。

平成24年度から文部科学省「大学間連携共同教育推進事業」で近畿地区7高専連携による防災技能を有した技術者教育を実施し、明石高専の4学科（機械工学科、電気情報工学科、都市システム工学科、建築学科）全てで防災に係る教育の充実、地域交流に係る取組が始まりました。明石高専、自治会、あおぞら財団と協働し高専体育館で災害時要援護者避難訓練の実施（要援護者30名、約400人が参加）や、錦浦小学校区全世帯を対象にした防災アンケート調査の実施、学生が作成した三次元のCGを活用した防災教材、防災ゲーム室3次元振動台を使った防災教材「危険くん、耐震くん、安心くん」等は住民や子供達にとっても好評でした。

平成25年度からは、防災士の受験資格が得られる「防災リテラシー」の科目を1年生に必修化。同校では、既に延べ200人程度が防災士の資格を得ています。平成27年度には、防災士を取得した学生の自発的な組織である「明石高専防災団 D-Pro135°」が立ち上がり、防災ゲームを開発、作成し、地域の小中学生の防災の授業に出向いたり、明石市二見町東二見地区においては、学生が自治会・漁協・高年クラブ・高専OBと協働して、減災への取組みを進める試みが行われ、平成28年度1.17防災未来賞「ぼうさい甲子園」でフロンティア賞を受賞するなど、活発な活動が行われています。

所在地 明石市魚住町西岡679-3

TEL 078-946-6017（代）

HP <https://www.akashi.ac.jp/>



施策紹介

○防災教育の推進（兵庫県）

兵庫県では、防災教育副読本「明日に生きる」を活用し、各教科や体験活動等を通して、災害から自らの生命を守るため主体的に行動する力を育成するとともに、ボランティア活動の推進により生命の尊さを実感させ「共生」の心を育む「兵庫の防災教育」に取り組んでいます。

また、各校の災害対応マニュアルを不断に見直すとともに、校内研修等を通じて危機管理意識や判断力の向上を図り、学校が地域の防災拠点として機能するよう学校防災体制の充実を図っています。あわせて、地域の災害特性、近年の災害被害等を踏まえ、震災・学校支援チーム（EARTH）や防災士会等の協力を得て、平素から地域、専門機関等と連携した実践的な防災訓練を実施しています。



▲ 防災教育副読本「明日に生きる」
小学生用（低学年用、高学年用）



▲ 防災教育副読本「明日に生きる」
中学生用、高校生用

○ 1.17 防災未来賞「ぼうさい甲子園」

兵庫県、毎日新聞社、公益財団法人ひょうご震災記念 21 世紀研究機構（人と防災未来センター）では、児童・生徒等が学校や地域において主体的に取り組む防災教育や防災活動にかかる先進的な活動を全国から公募し、選考委員会で審査のうえ顕彰しています。

平成 17 年度から毎年実施しており、毎回多くの応募が寄せられ、グランプリをめざして各校が取り組みを競っています。

【対象部門】

小学生、中学生、高校生、大学生の4部門

【賞】

グランプリ（1点） ぼうさい大賞（各部門1点）
優秀賞（各部門1点） 奨励賞（各部門数点）
はばタン賞（数点） だいじょうぶ賞（数点）

【応募期間】

毎年6月中旬～9月末

【表彰式・発表会】

毎年1月上旬



TEL 0798-64-5829（特定非営利活動法人さくらネット）

HP <http://npo-sakura.net/bousai-koushien/>

4 防災リーダー講座に参加しましょう

多様化・多発化する風水害や近い将来の発生が懸念される南海トラフ地震等による被害の軽減を図るためには、行政はもとより県民一人ひとりの防災への取り組みをより一層促進し、地域の防災力を高めていく必要があります。

このため、兵庫県では、地域防災の担い手となる自主防災組織等のリーダーの育成を目的とした「ひょうご防災リーダー講座」を実施しています。

講座では、自主防災組織等の地域コミュニティが主体となって直ぐにでも取り組むことが出来る実践的な内容を学ぶことができ、修了すると「ひょうご防災リーダー」の称号が授与されます。地域の防災リーダー目指して是非参加しましょう。

施策紹介

○ひょうご防災リーダー講座（兵庫県）

地域や企業の防災の担い手として活動する人材を育成するため、兵庫県が実施している講座です。毎年10月頃から翌年3月頃にかけて三木市の兵庫県広域防災センターにおいて12日間開講しています。

防災分野の一流の講師陣による講義のほか、地区防災計画づくり、避難所運営ゲームHUG（風水害編）、災害図上訓練DIG、自主防災組織の災害対策本部運営訓練などのワークショップ型研修に加え、地域防災訓練への参加等多彩なカリキュラムで構成しています。これまで延べ2,025名（平成27年度末現在）の方々が修了されています。



▲ ワークショップ



▲ 救命講習

<申込・問合せ先>

所在地 三木市志染町御坂 1-19

TEL 0794-87-2920（兵庫県広域防災センター）

HP <https://www.fire-ac-hyogo.jp/leader/>

● 地域防災力の担い手となる全国的民間資格「防災士」

「防災士」とは、「自助」「共助」「協働」を原則として、社会の様々な場で防災力を高める活動が期待され、そのための十分な意識と一定の知識・技能を修得した人として特定非営利活動法人日本防災士機構が認定する資格制度です。阪神・淡路大震災で住民の共助の力が発揮された教訓から、地域防災力の担い手となる防災のリーダーを育成するために、平成15年に創設されました。防災士として認証登録を受けるためには、日本防災士機構が認証した研修機関が実施する研修を履修した上で、同機構が実施する「防災士資格取得試験」に合格することが必要です。平成28年11月30日現在で119,460名（兵庫県内は3,723名）の防災士が認証されています。

TEL 03-3592-1511（特定非営利活動法人日本防災士機構）

HP <http://bousaisi.jp/>

先進事例

Around20世代が災害を自分ごととして捉え備える「ぼうさいマスター」 117KOBEぼうさい委員会 117 KOBEぼうさいマスター育成会議

神戸新聞社と神戸市でつくる「117 KOBE ぼうさい委員会」では、災害を自分事として捉え、備えることの大切さを伝えるため、「私たちのまちは、私たち自身で守る！」運動を推進しています。

命を守る技能や知識を持ち、「いざという時」に率先して動ける人が多くいれば、それだけ災害に強いまちになるとの思いから、防災リーダー的な人材である「ぼうさいマスター」の養成に取り組んでいます。平成 28 年春時点で約 700 人のぼうさいマスターが誕生しています。

ぼうさいマスターに認定された若者たちは、地域や大学内での活動成果発表、被災地のボランティア活動、ブラインドフットサル大会での救命処置訓練、ふたば学舎（長田区二葉町）でダンボールハウスだけで一晩過ごす避難所体験など様々な活動を実施するとともに、神戸新聞紙面をはじめ、SNS を使って Around20 世代の間で情報共有、意見交換を行っています。



ぼうさいマスター認定証



熊本地震ボランティア

5 防災を専門的に学びましょう

阪神・淡路大震災後には、地域や社会の持続的発展にとっての防災の重要性が認識され、“防災の主流化”が進んできました。行政をはじめ企業や地域においても防災能力向上のため、様々な体制整備や施策・事業に取り組んでいます。

このような動きに応じて、防災分野の専門的な知識や技能を学ぶニーズが高まっています。県内には、このようなニーズに応える高等教育機関が充実しています。防災の専門家をめざして専門的な研究・研修にチャレンジしてみましょう。

県内で防災が専門的に学べる高等教育機関

○兵庫県立大学防災教育研究センター（神戸市中央区）

阪神・淡路大震災などの経験と教訓を踏まえ、兵庫県が蓄積している、防災に関する情報や対応策のノウハウを次世代および他地域に伝えるため、兵庫県立大学が2011年度に設置しました。「防災マインド」（防災への優れた知識と行動する心）を持ち、地域や社会に貢献できる人材の育成を目指し、ユニット方式による防災教育を推進しています。

災害発生のしくみや防災・減災、災害対応・支援などに関する科目から構成される科目群について、座学の講義だけでなく、実践的な活動を伴う講座や外に出て調査を行うフィールドワーク、少人数で研究討議を行うゼミナールにより学びます。各学部のカリキュラムとは別に開講しており、ほぼすべての科目について、1年生から4年生までの間、所属学部を問わず受講できます。



所在地 神戸市中央区脇浜海岸通 1-5-2
人と防災未来センター東館 4 F

TEL 078-271-3290（事務室）

HP <http://www.u-hyogo.ac.jp/campuslife/program/bousai/index.html>

○兵庫県立大学大学院「減災復興政策研究科」（神戸市中央区）

平成29年4月開設

兵庫県立大学では、平成29年4月、HAT神戸の「人と防災未来センター」東館内に「減災復興政策研究科」（室崎益輝研究科長）を開設します。震災後20年に及ぶ復興の教訓や東日本大震災等の課題を踏まえ、減災や復興に貢献する人材の育成を目的に、災害に関連する政策や防災教育などを研究内容とし、HAT神戸に立地する防災関係機関等との連携も図ります。定員は各学年12人、計24人とし、学部卒業生と社会人を受け入れます。

社会人で職場から派遣される場合は、1年目はHAT神戸での講義やフィールドワークを行い、2年目は派遣元の職場に復帰し、修士論文の作成に当たることが可能です。

所在地 神戸市中央区脇浜海岸通 1-5-2 人と防災未来センター東館内

TEL 078-794-6061 兵庫県立大学学務部学務課新研究科設置準備担当 ※平成29年3月までの問合せ先

HP <http://www.u-hyogo.ac.jp/academics/graduate/gensai/index.html>

○神戸学院大学現代社会学部社会防災学科（神戸市中央区）

阪神・淡路大震災の震源地に最も近い大学として、平成18年に学部横断的な教育プログラムである学際教育機構「防災・社会貢献ユニット」を立ち上げ、防災や社会貢献の専門家を育成し、その実績をもとに、平成26年4月、社会防災学科が開設されました。定員は各学年90名。阪神・淡路大震災から得られた知見を生かし、明るい未来を開くために社会や他者に対して使命感を持って対応し、具体的な解決策を見つけ実践することを目指す学科です。



1年目は防災や社会貢献の基礎を学び、専門科目全体の概要を理解します。2年目に被災地支援や国際協力、ボランティアに必要な考え方の土台を築きます。3年目に実際に現場に足を運び、学びを実践に活かします。4年目には養った知識と実践力を基に研究を進めます。授業は少人数で、ディスカッション、プログラム立案、プレゼンテーションを通して発言力、企画力、発信力を育成。また、企業や行政、NPOと連携し、学生中心のプロジェクト型実習を行っています。アクティブラーニングとサービスマーケティングが融合した学びの場です。

所在地 神戸市中央区港島 1-1-3 ポートアイランドキャンパス

TEL 078-974-1551 (代)

HP <http://www.kobegakuin-css.jp/>



○関西学院大学災害復興制度研究所 (西宮市)

関西学院大学では、阪神・淡路大震災の直後から、学生を中心とした震災救援ボランティア活動や各学部の教員による復旧・復興の研究が行われてきました。平成16年1月に、全国の自治体・大学・NPOなどの復興支援関係者を一堂に集めた「災害復興制度研究プロジェクト」を開始。その研究拠点として、震災からちょうど10年の節目である平成17年1月17日に、災害復興制度研究所が発足しました。

人文・社会科学を中心とした「復興」制度の研究に焦点を合わせる点では全国唯一の研究所です。「Mastery for Service」(奉仕のための練達)の精神に則って、全国の被災地やNPO・NNGO、他大学とネットワークを形成しながら、「人間の復興」を支える法制度を生み出すべく研究を続けています。その研究の成果などを報告する復興・減災フォーラムを毎年、阪神・淡路大震災が起きた1月17日の直前に開催しています。

平成20年1月14日には、故貝原俊民・元兵庫県知事を顧問に研究所の音頭で旗揚げした日本災害復興学会の発足大会を関西学院大学で開催、井戸敏三・兵庫県知事、泉田裕彦・新潟県知事(当時)らを招いて、記念シンポジウムを催しました。以降、研究所が復興学会の事務局を担っています。

所在地 兵庫県西宮市上ヶ原一番町 1-155

TEL 0798-54-6996 (災害復興制度研究所) **HP** <http://www.fukkou.net/index.html>



▲ 2016年復興・減災フォーラム

○関西国際大学 (三木市)

関西国際大学の三木キャンパスは、「兵庫県広域防災センター」や「実大三次元震動破壊実験施設：E-ディフェンス」などの大規模な防災関連施設の近隣にあります。

同大学では、阪神・淡路大震災を経験した兵庫県にある大学として、安全・安心をテーマに、東南アジアの14大学との協定締結によりAsian Cooperative Program (ACP)が発足し、協定大学と共にさまざまなプログラムを充実させています。

平成28年4月には、この成果に立って、安全・安心をキーワードにした全学教育を行う「セーフティマネジメント教育研究センター」が開設され、平成28年9月下旬、「防災士」養成講座が全国で初めて企業からの寄附により開講されました。この講座は、平成29年度には全学部の学生が対象となります。



所在地 三木市志染町青山 1丁目 18番
三木キャンパス

TEL 0794-85-2288 (代)

HP <http://www.kuins.ac.jp/>